

# 第5回 GX実行会議

令和4年12月22日

中部電力株式会社  
代表取締役会長  
勝野 哲

# 安定供給の再構築、脱炭素と原子力の役割

第1回GX実行会議  
弊社提出資料(一部修正)

中部電力

脱炭素と安定供給の両立に向け、電気事業者として、より一層のお客さまからの理解獲得と地域との共生、再エネ・原子力の最大限の活用および火力等の脱炭素化に取り組む。

## ■ 安定供給の再構築

### ○短期に加えて中長期の課題解決：安定供給管理

- ・供給計画の改善等による発電設備と発電kWhの予備力管理
- ・周波数調整義務を担う一般送配電事業者をはじめとする電気事業者と広域機関との役割分担の明確化（誰が、どうやって、誰の負担で）

### ○小売電気事業者の安定供給マインド強化と卸取引の高度化

- ・小売事業者が適切な固定費負担のもと計画的に供給力を確保し、実需給が近づいた段階ではメリットオーダーに基づきkWhの差替・調達を行うことで変動費の負担を最適化できる、卸取引環境の整備

## ■ 脱炭素と原子力の役割

○3E（安定供給、経済性、環境性）のバランスに優れた原子力発電は、安全性・経済性を最大限追及しつつ、引き続き活用していくことが必要。

○原子力発電は発電から再処理・最終処分に亘る長期の事業。安全性最優先の下、事業者の弛まぬ創意工夫と国の政策下での一貫した事業環境整備が重要。

### <利用戦略>

- 早期再稼働を果たし、既設炉を最大限活用 → 利用率向上、長期運転、安全規制から安全な利活用規制へ
- 次世代炉（SMR、高温ガス炉等）の研究開発、次世代技術者の育成、研究開発・設計における国際連携
- 原子燃料サイクルの確立・推進 → 再処理、プルサーマル、放射性廃棄物減容、廃棄物処理、最終処分
- お客さま・立地地域からの理解 → リスク最小化・バックエンド確立による不安払しょく、利用価値の訴求

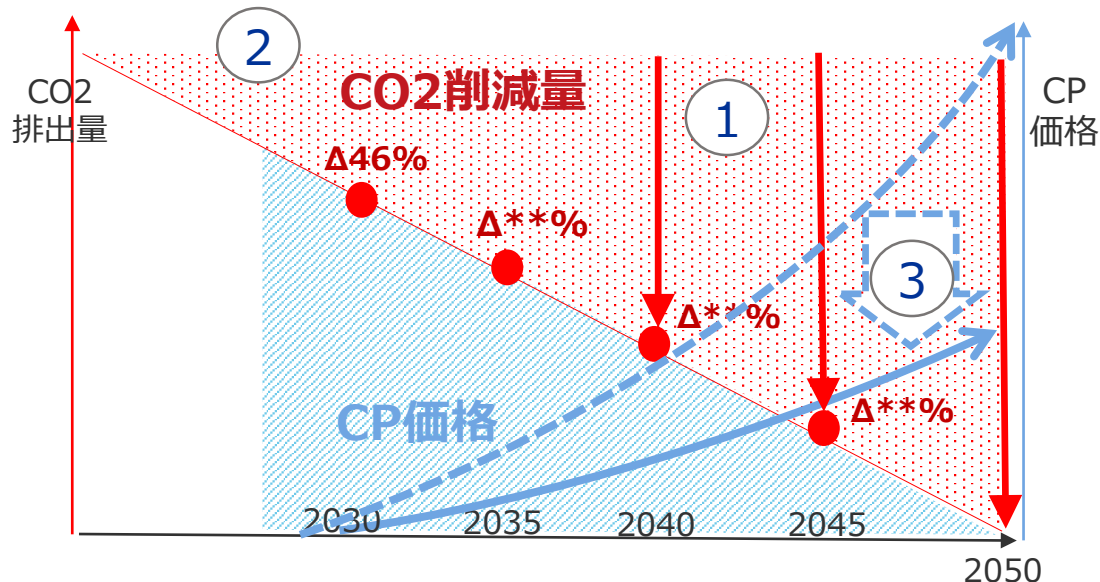
### <更なる価値追求>

- エネルギー密度高い（供給安定性）、備蓄性高い（1回の燃料装荷で数年間活用）、再エネ活用（出力追従運転、水素製造）

## 成長志向型カーボンプライシング構想と財源

第4回GX実行会議  
弊社提出資料(一部修正)

中部電力



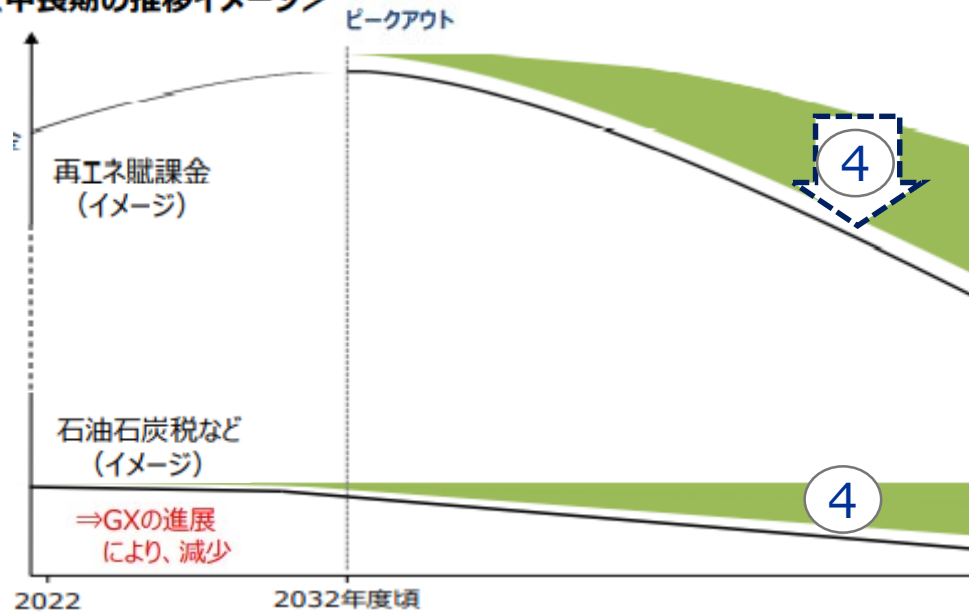
## ◆ 成長志向型CP構想にむけて

- ① 日本全体のロードマップの策定、CO2削減量の分野別・定量的なマイルストーンの設定  
⇒ 投資による排出量削減シナリオ
- ② 投資の用途  
⇒ 供給側だけでなく、使用側の脱炭素化も促進
- ③ CP価格の予見性の確保  
⇒ 削減量に応じた投資インセンティブ



投資による経済成長とCO2排出削減の達成

## &lt;中長期の推移イメージ&gt;



## ◆ 財源の考え方

- ④ 電力分野に偏らない負担  
⇒ 電化は脱炭素に必須、電力価格低減も課題  
⇒ 既存の税制や規制をスクラップ&ビルドし、エネルギー間の負担バランスも必要



公平・中立性の確保、国民理解と行動変容

出典：2022/12/14 クリーンエネルギー戦略検討合同会合資料を一部加工

Copyright © Chubu Electric Power Co., Inc. All rights reserved.



中部電力